

令和8年度 重点研究課題

番号	研究タイトル	研究担当者	参加 職員数	研究内容
1	下総台地西部の自然	御巫由紀（代表者）・浅野 紗彩・内海幸弘・奥田昌 明・尾崎煙雄・小田谷嘉 弥・小林大純・斎木健一・ 坂田歩美・樽 宗一郎・栃 原行人・西内李佳・西川あ い・萩野康則・水野大樹・ 山中 蛍・山本伸子	17	下総台地西部の植物相及び動物相の調査や生態学的調 査・地学分野の調査を行う。下総台地は県南部の丘陵地 に比べてこれらの調査研究報告が少ないが、その一方で 開発が進み人口が多く・身近な自然環境に興味を持つ県 民が多い。令和2～4年度に実施した重点研究「下総台 地東部の自然」と合わせて下総台地の自然誌の基礎的な 知見と資料（登録標本含む）を蓄積し、令和9年度に季 節展「下総台地の自然（仮称）」を開催する。
2	東京湾の変遷を探る	黒田篤史（代表者）・小出麻 友美・小川宏和・二葉俊 弥・山中 蛍・加藤久佳	6	千葉県にとって一番身近な海である東京湾について、当 館を主体として県内の他の博物館と共に連携して調査・ 研究行う。調査は、沿岸の地形・地質学的調査等の自然 科学的な側面と、東京湾沿岸の景観と周辺の生業の変化 等の人文科学的な側面の両面からアプローチする。昨年 度に引き続き調査を進め、令和9年度にトピックス展を 開催する。
3	房総海岸部における動植物	駒井智幸（代表者）・村田 明久・監物うい子・伴 光 哲・宮川尚子・樽 宗一 朗・小田谷嘉弥・小出康裕	8	海岸は陸と海の境界に位置し、陸上生物・海洋生物のい ずれにとっても過酷な環境である。このような環境に は、それに適応した特有の生物が生息・生育し、ユニークな生態系を形成している。千葉県では多様な海岸環境 が見られると共に、北からの親潮と南からの黒潮という 二つの海流の影響を受けて、北方系および南方系の生物 が県内に共存している。これらの特性から、千葉県は海 岸域における生物多様性を理解する上で極めて重要な地 域である。本研究では、海岸部に生息・生育する動植物 および菌類のインベントリ調査を通じて、この生物相 の全容を明らかにすることを目的とする。 今年度は、県内各地で調査を進め、主に動物について 標本、画像、映像などの資料を収集する。これまで蓄積 された知見のある分類群については、分類学的な問題を 解決する論文の投稿、公表に努める。

